

ハラスメントの防止に関するガイドライン

聖マリアンナ医科大学看護専門学校は、すべての学生が個人として尊重され、たがいの信頼のもとに勉学や課外活動にいそむことができる健全な環境をつくり、これを維持していくために、「ハラスメントの防止に関するガイドライン」を作成し、啓発をはかる。

1. ガイドラインの対象

- (1) ガイドラインは、本校の学生を対象とする。
- (2) ガイドラインは、本校の内外、授業、課外活動の時間を問わず、ハラスメントのすべてを対象とする。

2. ハラスメントとは

ハラスメントとは、相手の意に反する言動によって、相手の人格を傷つけ、人権を侵害し、学校の秩序を乱し、その円滑な活動を阻害するものである。本校では、修学上、教育上或は学生生活における関係を利用してなされるいやがらせや、いじめ行為をハラスメントと定義し、それには性的に不適切な言動を行う『セクシュアルハラスメント』、教育の場における権力を利用していやがらせを行う『アカデミックハラスメント』などがある。

3. 基本的な心構え

全ての学生・教職員は、次の事項について 十分認識しなければならない。

- (1) 言動に対する受け止め方には個人間や男女間、その人物の立場等により差があり、ハラスメントになる

か否かについては、相手の判断が重要であるため、次の点に注意する。

- (a) 親しさを表すつもりと言動であったとしても、本人の意図とは関係なく相手を不快にさせてしまう場合

がある。

- (b) 不快に感じるか否かには個人差がある。
- (c) この程度のことは相手も許容するであろうという勝手な憶測をしない。
- (d) 相手との良好な人間関係ができていると勝手な思い込みをしない。
- (e) 「どこまでなら許されるか」という低レベルで考えるのではなく、人間の尊厳を尊重した判断を心がける。

- (2) 相手が拒否し、またはいやがっていることがわかった場合には、同じ言動を決して繰り返さない。

- (3) ハラスメントを受けた者が、人間関係を考え、拒否することができないなど、相手に対しいつも明確な意

思表示ができないこともあるので、それを同意・合意と勘違いしてはならない。

(4) 誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、ハラスメントを起こしうる可能性もある。

4. 防止するためには

- (1) あらゆる機会を通じてハラスメント防止のための啓発・広報活動を行う。
- (2) ハラスメントが発生しないような環境をつくる。
- (3) その他ハラスメント防止のために必要な措置をとる。

5. 受けたときには

(1) ハラスメントを受けた場合には、被害を深刻にしないために次の事項について認識することが大切である。

(a) 一人で我慢したり、受け流したり、無視しているだけでは必ずしも状況は改善されない。

(b) ハラスメントに対しては行動をためらわない。

(2) ハラスメントを受けた場合には次のような行動をとるよう努めることが重要である。

(a) いやなことは、相手に対して明確に意思表示すること。

ハラスメントに対しては、毅然とした態度をとり、はっきりと自分の意志を相手に伝える。

(b) 信頼できる人に相談すること。

一人で悩まないで、信頼できる周囲の人に相談すること。そこで解決することが困難な場合には、ハラ

スメントに関する相談員(聖マリアンナ医科大学ホームページ参照)に相談をもちかける。その際、ハラ

スメントが発生した日時、内容等について記録したり、第三者の証言を得ておくことが望ましい。

6. 見かけたときには

周りでハラスメントを見かけた場合には、当事者間の個人的な問題として片付けてしまうのではなく、周囲の人の意識と態度が防止するための重要な要素であることを自覚し、行為者に注意したり、被害を受けた者とハラスメントに関わる相談員まで同行するなどの行動をとる。

7. 相談・苦情

- (1) ハラスメントに関する相談、苦情はハラスメントに関わる相談員が窓口となる。

(2) 必要に応じ相談者の承諾を得たうえで、担当者は相互協力し、問題の解決にあたる。

(3) 学生が相談をしたり、苦情を申し出たりしたこと等を理由として、その学生が不利益な取り扱いを受ける

ことはなく、また、相談、苦情等の対応にあたってはプライバシーや名誉、其他人権を尊重して行う。

8. 防止義務

学生は、ハラスメントのない快適な環境のもとで、勉学や課外活動にいそしむことができるよう、記載してある事項に留意し、ハラスメントの防止等に取り組まなければならない。

なお、発生した際、加害者の言動が意図的または悪意によるものと判断された場合は、学則等に基づき、加害者を懲戒処分の対象とすることがある。